

第2回富山市総合計画審議会 議事録

日時 令和8年2月16日(月)14:00～16:00

場所 ToyamaSakuraビル5階大会議室

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
 - (1)基本構想(案)の確認について
 - (2)前期基本計画の政策体系について
 - (3)今後のスケジュールについて
4. 意見交換
5. 閉会

【意見交換】

<概要>

委員

総合計画では、富山市がどのような戦略を立て、基本構想を実現していくかが重要である。総合計画策定直後に失敗するとその後の挽回が非常に難しくなるため、戦略を考えた上で進めていただきたい。

これまでの5～10年間を通して変えるべき点を整理しなければ、これまでと同じことを実行するだけであり、仮に施策目標の達成率が50%程度だったとしても、全体としてよい方向に進んでいるとは言えないのではないか。

他の県や市町村でも同じようなことを考えている中で、富山市は本当に住みやすいと思われているのか、若い人たちはどう感じているのか、楽しいと思っているのか、なぜ市外へ出ていくのか、何が足りないのかを含めて、戦略的に何を補強する必要があるのか考えていただきたい。

また、人口減少は今後さらに進む可能性があり、令和42(2060)年までに出生率を人口置換水準の2以上とする目標の妥当性も含めて戦略的に考えていただきたい。

資料1は各政策単体で見ると納得できるが、全体で見ると矛盾を感じる。例えば、中心市街地に人を集めると郊外では空き家が生じるが、どのように人を集めるのか、ばらばらに人が集まった場合、コミュニティは形成されるのか。一つ一つの政策はよいが、全体としてアンバランスであり、戦略が必要であると感じている。

委員

基本構想は良くまとまっている印象を受けた。産業・雇用分野では若い人たちが働きたいと感じる場所の把握が重要である。若者が流出する中で産業も弱まっており、どのような働く場を用意できるかが問われている。アンケート結果を見ても、働きたい場所や機会がないために県外へ出ていくため、魅力的な産業の育成が重要であると感じている。

政策10—①「地域産業の成長と新分野進出の促進」に関係するが、新分野進出やスタートアップを、既存の産業構造をベースにしながら育ていく視点が、これまで以上に重要であると考えている。

委員

第一印象として、県庁所在地である富山市の施策が、県の施策とどう違い、県とどのように協働していくのが分かりにくいと感じており、総花的な印象がある。実際に力を入れる分野とそうでない分野を分けなければ、計画のポイントが分かりにくい。災害に強いまち、高齢者に優しいまち、犯罪が少ないまちなど、ポイントを絞って取り組んだ方が、これまでの計画とは異なる印象を持たれると感じている。目指す方向性をはっきり示す必要がある。

委員 各政策分野がかなり完璧に近い形で基本構想(案)に盛り込まれており、全体として納得している。ただし、10年後を見据えた計画であるため、今決めたことを10年後まで守り通せるかどうかは、柔軟に考えるべきではないか。

最も重要なのは、人口減少に歯止めがかかるかどうかであり、全施策を実施したからといって歯止めがかかるかは分からないが、やってみるという姿勢が必要であると思う。

富山市が中核市としての機能を果たせるのか、また、豊かさを追求した結果、市民が望まないことを行うなど、本末転倒にならないようにしてほしい。

委員 基本構想(案)には都市マスタープランを踏まえたコンパクト・スマートシティの更なる推進や、市長公約の「幸せ日本一」実現に向けた政策が盛り込まれていると見受けられた。

未来スケッチの前提となっている公共交通インフラが崩れつつある中で、課題解決のために基本計画をどれだけ丁寧に組み立てるかが重要である。また、運転手不足など様々な課題がある中で、10年後を見据えた前提条件をどう設定するのか、危機管理も含めて基本計画に落とし込む必要があると感じている。

防災・防犯についても、避難所運営の経験不足を踏まえ、防災・減災に向けて今後の大規模災害を想定した日頃の備えや、コミュニティの中でのリテラシー向上が重要である。

委員 健康や医療は人を対象とする分野であり、人口減少が進む10年後には大きく変わると感じている。コロナ禍を経験し、社会状況は10年間でも大きく変わり得ることを実感しており、考え得る内容は基本構想(案)に盛り込まれていると感じている。基本構想(案)は現時点で問題ないと考えている。

委員 基本構想全体について大きな異論はない。一つ一つの施策については全体のバランスが必要であるとの指摘があったが、分野横断的に検討されていると感じている。

ただし、各分野で施策の重複が見られるため、十分な調整をお願いしたい。また、市民に分かりやすいよう用語の説明も加えていただきたい。

政策06-④「醸成したシビックプライドの内外への拡大」で「#AMAZING TOYAMA」の拡大が、政策07-④「公正で効率的な行財政運営と組織活性化」で「#柔軟な働き方」と記載があるが、前者は情報発信の拡大という理解でよいか。また、後者の「柔軟」とは具体的にどのような意味なのか確認したい。

事務局 「AMAZING TOYAMA」の拡大については、情報発信の強化を通じて市民のシビックプライドの醸成を図り、最終的には郷土愛を浸透させたい。また、「柔軟な働き方」については、リモートワークをはじめとする多様な働き方が社会全体に広がっている状況を踏まえ、従来の働き方改革の延長線上で、多様な働き方を想定している。

委員 行政の計画であるため、網羅性は必要であると考えている。今後、施策に落とし込む段階では、実現性のある計画を作成いただきたい。その点では、他の市町村や県、国との関係も重要であり、橋や道路などのインフラも含め、富山市のリソースには限りがある中で、他との連携を念頭に置いた上で具体的な施策に落とし込んでいただきたい。

委員 全体的にすばらしく策定されていると感じている。人口減少の中で持続可能性が重要であり、人口が減る中でも幸せになっていけるのかが問われていると思う。

政策 11—③では水産業の振興が挙げられており、水産業でも持続可能性が重要である。栽培漁業の支援も重要であるが、資源をいかに維持していくかが大切である。富山は魚介類に恵まれており、生活の根本を支えているため、水産業でも持続可能性を重視すべきである。

委員 全体的に分かりやすく策定されていると感じている。総合計画はどうしても総花的になりがちだが、総合計画は多くの分野を包含する必要があるため、ある程度は仕方ないと思う。

ただ、これまでも別冊として重点項目を示していたため、本編とは別に、力を入れる点が分かるよう、重点項目を別冊などで示すとよい。

今回の総合計画策定では、人口減少が最も大きな問題であると感じている。加えて、地域コミュニティの弱体化も進んでいると考えており、数値化は難しいものの、全施策に影響する重要な要素であるため、明示していただきたい。

委員 各分野を網羅している点は評価できるが、重点分野を分かりやすく表記できればよいと感じている。全施策の実施が理想であるが、重要項目を表示することで計画の意図がより明確になると思う。

住宅の耐震化を優先的に進めていただきたい。呉羽山断層帯による地震が発生した場合、富山市は重大な被害を受ける懸念があり、命を守る観点からも住宅の耐震化は重要である。

委員 富山市はコンパクトシティとして有名だが、10年後に中山間地域がどうなっているのかが気になっている。車を使えない市民はどのように生活していくのか。

また、農業について、主食である米を作る人口が少なくなり、将来的に

米を食べることができなくなる。農業の担い手を増やす方法について真剣に考えていただきたい。

委員

基本構想は、市民に伝わりやすいメッセージになっており、よいと感じている。

公共インフラとにぎわいについて留意すべき点がある。08 都市・交通の未来スケッチ④では「公共インフラが、未来に向けて賢く管理されている」と記載されているが、10 年後を見据えると、人口減少の中で管理コストは高くなる。管理は単なる維持ではなく、総量の抑制や縮小も視野に入れる必要がある。

政策 08—④「安全・安心を守る都市基盤の維持管理」のメッセージとして、集約化や解体も意図していると理解している。都市基盤の維持管理が、現状のインフラ維持にならないように注意する必要がある。

また、まちのにぎわいについては、まちなかや都心地区のにぎわい形成に向けて、若い人を引きつけるクリエイティブ産業の誘致が必要であると考えている。

委員

富山市人口ビジョンにおいて、令和 52(2070)年の目標人口 32 万人を設定している点は、非常に意欲的な設定であり、相当な覚悟が必要であると感している。

各政策では未来スケッチが示されているが、「スケッチ」という言葉は下書きやアイデアのレベルに受け取られかねないため、「目指す姿」などの表現に変更し、市民や関係者が共通の目的意識を持つことが、今後の政策展開に有効ではないかと考えている。

また、政策 01—④「地域で支え合う包括的な医療・保健・福祉体制の構築」のキーワードに「#介護 DX」を追記いただきたい。県でも介護分野の人材不足が指摘されており、富山市でも約 1,000 人不足していると伺っている。デジタル技術を活用し、介護人材の負担軽減が必要である。

さらに、政策 03—③「地域拠点を活かしたつながりの強化」のキーワードに「#ジェンダー平等」を追記いただきたい。一般財団法人日本総合研究所が発表している幸福度ランキングにて富山市は中核市の中で2位に位置付けられている一方、人口流出の推移を見ると、若い女性が活躍できる環境が十分に整っていないことが、富山市から流出する要因の一つではないかと感している。

最後に、政策 11—④「都市との交流による中山間地域の振興」について、農用地の保全は重要であり、人口減少や高齢化が進む中で、各地域の団体が一体となって取り組むため、農村型地域運営組織(農村 RMO)を増やす必要があると考えている。

委員

05 スポーツで掲げられている「する・みる・支える・つながる」は、富山県スポーツコミッションのキーワードでもあり、05 スポーツの①から④まで整理されており、大変よい構成であると感じている。生涯スポーツは政策05—①「誰もが楽しめるスポーツ環境の充実」で、競技力向上は政策05—③「スポーツ指導者と組織の育成」に位置付けられており、分かりやすい。

選手育成やスポーツを軸としたまちづくりとして、行政としてもスポーツに力を入れていただきたい。

政策05—④「スポーツによる交流とにぎわいの創出」では、コミュニティの希薄化が進む中で、各地区や各校区のスポーツ協会活動の支援をお願いしたい。またアリーナの記載もあり、YKK AP ARENA(富山市総合体育館)は今年10月にリニューアルオープンし、今年は富山市でプロ野球オールスターゲームが開催されるなど、スポーツビジネスの支援も検討していただきたい。

08 都市・交通では政策08—①「便利で使いやすい公共交通の充実」でコンパクトシティやウォークアブルなまちづくり、次世代型交通システムが、政策08—②「にぎわいと暮らしを支える都市拠点の形成」では中心市街地活性化のキーワードもあるため、積極的な推進をお願いしたい。

委員

基本構想で未来スケッチがあり、政策も示されており、実現してほしい内容であると感じている。一方で、市民と行政が一体となって計画に向かわなければ、うまくいかないと考えている。

市役所の更なる業務負担が懸念される中、行政改革も進められている。こうした中、計画と結び付かなければ欠け落ちる施策が出てくると感じている。

政策01—④「地域で支え合う包括的な医療・保健・福祉体制の構築」では児童養護施設についても検討が必要ではないかと思う。

委員

基本構想全体については、特段の意見はない。

政策08—②「にぎわいと暮らしを支える都市拠点の形成」という名称は、富山駅や総曲輪など都心部のみを指しているように受け取られかねないが、政策08—②の未来スケッチでは地域の拠点も示されているため、「地域生活拠点」のような表現を含めることで整合性を図ることができると考えている。

また、空き家・空きビルの利活用、エリアマネジメント、官民連携は今後重要になる要素であり、クリエイティブ産業やまちなかオフィスも重要なキーワードとして挙げたい。

政策08—③「多様な暮らし方ができる交通体系の整備」の「#コミュニ

ティバス・地域自主運行バス」については、自動運転バスやAI オンデマンドバスも想定されるため、次世代型交通システムとの整理が必要である。

政策 08—④「安全・安心を守る都市基盤の維持管理」については、「維持管理」が物理的な施設管理と捉えられやすいため、戦略的な表現として「マネジメント」が考えられ、「社会インフラマネジメント」というキーワードがあるとよい。

委員

これからの10年間、富山市を全員で作っていく大きな枠組みとして、この計画をワクワクしながら見ている。内容を見ても、支え合う、夢を持つ、市民主体、良さの発信といった点が盛り込まれており、全体として賛成である。

基本構想(案)の書きぶりについて、夢を語るときは「現在」に注目し、問題を指摘するのではなく、富山市の良さをさらに良くするにはどうすればよいか、ワクワクする表現を検討していただきたい。

都市マスタープランや行政改革との整合性も読み取れる内容になっていると感じている。

委員

部会での検討内容を基本構想(案)に含めていただき、感謝している。外国にルーツを持つ子どもたちも増えており、共生の視点は欠かせない。

施策体系では02 結婚・出産・子育てと04 教育でいずれも子育て支援に力を入れているが、未来スケッチで混同しているように感じる。政策で色分けを明確にすると、違いが分かりやすくなると思う。

04 教育については、教育に携わる人材の育成にも力を入れていただきたい。教員の働き方改革が進まない中、子どもを育てるためのワーク・ライフ・バランスが確立されなければ、教育の更なる充実は難しい。

委員

08 都市・交通の未来スケッチはうまくまとまっていると感じている。政策08—①「便利で使いやすい公共交通の充実」が串、政策08—②「にぎわいと暮らしを支える都市拠点の形成」がお団子、政策08—③「多様な暮らし方ができる交通体系の整備」が郊外という構成の中で、③はお団子の周辺部分に位置付けられると考えている。

公共交通は重要でな「串」であり、郊外型の地域交通も重要であるため、コミュニティバスや地域自主運行バスと並んで、次世代のオンデマンド交通に該当するキーワードを入れるとよいと思う。

また、政策12—④「エネルギーの有効活用」について、脱炭素化は途中段階であり、目指す姿はカーボンニュートラルであると理解している。ZEH(ゼッチ)は限定的な印象があるため、住宅の断熱など、より大きな概念として整理するとよいと感じている。

委員

全体としてよくまとめられていると感じている。スケッチやキーワードも

地に足をつけて考えられている印象がある。

人口減少を改善するため、市民が希望を持てる、目玉となるようなおもしろい取組を発信できるとよいと思う。市民や行政が背伸びをしてもワクワクできる内容があれば、若い人たちが富山市に希望を持ち、住んでみたいと思ってもらえると感じている。市民が主体的に発信できるワクワクする要素を掲げて総合計画を作成していただきたい。

また、政策 03—④「地域における伝統・歴史・自然の継承」の「#伝統文化振興」や「#祭り継承」と、政策 14—④「伝統文化の継承と文化遺産の活用」の「#伝統芸能の振興」や「#伝統工芸の継承」は入り口は異なるが方向性は同じであり、具体的に施策を実施する際は連携して相乗効果が出るとよいと考えている。

委員

基本構想は丁寧に作成されていると感じている。魅力のある企業をどう育て、どう誘致していくか、またクリエイティブな企業をどう位置付けるかが重要であると考えている。

富山市内でも魅力のある企業が増えてきているため、そうした企業を積極的に発信していくとよいと感じる。富山県と政策が重なる部分もあるが、「就活ライン富山」など、市町村と連携して県外に動画を発信する取組も行われている。

人口減少は労働力不足にもつながるため、企業によっては DX を推進し、省力化を進めているところもある。一方、医療・介護・福祉、保育など人員配置基準が定まっている分野では人材不足が見込まれるため、ハローワーク富山としても富山市と協力していきたい。

また、運転手不足の課題についても、今後とも取り組んでいきたい。

委員

基本構想(案)の文章全体がワクワクする表現になるとより前向きに読めると感じている。

政策 02—③「子育てを社会全体で支える仕組みづくり」について、保育士が疲弊すると質の高い保育ができなくなるため、保育士の質の担保について追記いただきたい。

県の子育て施策と同様の内容もある中で、富山市として独自に進めるのか。もしくは、県と寄り添いながら進めるのか。考え方も整理していただきたい。

事務局

02 結婚・出産・子育て施策については、県との整合性を確保しつつ、地域間で過度な差が生じないように配慮したい。一方、結婚支援等では、一律的な施策展開ではなく、対象や状況に応じた柔軟な対応が必要であるとの認識のもと、具体的な施策内容の整理を進めている。

委員

多文化共生の視点も含め、普段感じていることを基本構想(案)に拾い

上げてもらっていると感じている。

政策02—①「出会い・結婚の希望を叶える支援の充実」の「#出会いの場の創出」について、性格検査のように自分自身を分析し、どのような特性の人と合うのかを把握できる取組を保健センターなどで実施できるとよいと思う。赤ちゃんの健診はあるが、大人になると健診の頻度が少なくなるため、その前段階として、定期健診のように簡単なカウンセリングができる仕組みがあるとよい。

「若い女性」と一括りにされがちだが、若い女性だけではなく、大変な思いをしている女性も多く、出産年齢も多様である。統計などを活用し、女性の目線から現状を可視化できると、より具体的に課題を捉えられることができると感じている。

委員

「ひと」と「まち」は両輪であり、「まち」は平仮名、「ひと」は個人ではなく、人が集まってできる社会と認識している。01 健康・医療・福祉の2036年の市民の幸せ実感「困ったとき、助けてくれる人がいる。この地域で暮らせて、幸せ。」の「人」は漢字でよいのか確認したい。

02 結婚・出産・子育てと04 教育について3点申し上げたい。「こどもまんなか社会」がどこで明示されるのかが見えづらい。政策02—④「子どもの健やかな成長を見守る体制の充実」では「#児童虐待防止」が含まれており、子どもの権利とも重なるが、全体として分かりにくいいため、整理が必要であると考えます。

02 結婚・出産・子育ての未来スケッチでは、子育ての安心が中心になっているように見えるが、子育ての喜びや遊ぶ環境につながる要素もあるとよい。

政策02—③「子育てを社会全体で支える仕組みづくり」では保育サービスの提供が中心であるが、企業や地域が関わる内容を追記してもよい。

04 教育については、個別最適な学びが大きな柱であるが、政策03—③「一人ひとりに合った学びの充実」は支援や配慮が必要な教育サービスの提供を中心に記載されているように見えるため、政策03—④「全ての世代が学び活躍できる社会づくり」で具体的な教育の方向性を示すとよい。

委員

総合計画のうち前期基本計画は5年計画であるが、実際には10年後まで大きな影響を及ぼすため、計画策定初期の段階で失敗すると、その後の立て直しは非常に困難になると考えている。これまでの5年、10年の間にも同様の議論は繰り返されてきたが、なぜ実現できなかったのかを検証し、戦略的に変えるべき点を明確にしなければ、従来と同じ結果に留まると思う。

また、県や他市町村でも同様の計画が策定されている中で、富山市としてどこに独自性を持たせるのか、若い世代が本当に「住みやすい」「楽しい」と感じているのかを改めて問い直す必要がある。

ボランティアの担い手不足については、単なる人材不足ではなく、働く世代、とりわけ企業に勤める人が「会社での評価が下がる」、「職場に迷惑がかかる」といった理由で引き受けない現実がある。その結果、自営業者や企業経営者に役割が集中しているため、個人の問題ではなく、社会全体の文化や意識の問題として捉える必要があると考えている。

委員 本審議会に参加し、自分自身にとって大変勉強になる機会であった。せっかく時間をかけて作られた基本構想(案)をここで終わらせてしまっては全く意味がないと感じている。

地域コミュニティを大切にし、青少年活動や防災、高齢者支援などに関わってきた。今後も人口問題や高齢化といった大きな課題に向き合い、地域の中でできることを続けていきたい。

会長 今回の総合計画の特徴として、主語が「私」や「私たち」となり、市民一人ひとりが主体となって行動することを強く意識した構成になっていると感じている。地域コミュニティや社会活動の中で、市民としての責任を果たし、実際に行動に移していこうというメッセージが文章の随所に表れている

一方で、結婚・出産・子育てといったテーマについては、選択しない人や事情を抱える人への配慮も必要であり、押し付けがましく受け取られないよう、表現の工夫が必要であると感じている。

基本構想(案)に対する反対意見はなく、多くの示唆に富んだ意見をいただいた。今後は具体的な施策に落とし込む段階となり、色付けが進むことで、総合計画の見え方も変わってくると考えている。

(以上)